

経鷲会総会 11月12日に開催 奮って参加いたしましょう 今年のシンポジュームのテーマは『アジアの中の日本の役割』

総会の記念行事は、上記のテーマで、アジアの経済と文化を掘り下げアジアの中で求められている日本、そしてアジアの中で生きていくために日本は今何をしなければならぬかを、アジアで活躍しているソフィアンによるパネルディスカッションに決定しました。

アジアは世界で最も注目されている地域です。日本の主要企業は、それぞれの存続はアジアとの関係をどう展開していくかに掛かっているといわれております。

しかし、アジア諸国の人々の声は必ずしも日本と日本企業に対して好意的なもので

はありません。日本の将来の鍵とも言われるアジア。それほど重要なアジアに対する日本人一般の関心と理解は、まったくお寒い限りです。

今回のパネルディスカッションは、アジア諸国で長年に渡り現場でそれも泥にまみれながら活躍されているソフィアンによりアジアの人々の生の声を伝えていただき、これから私たちが何を成すべきかを、総会出席者全員で考えてみようという企画です。

多くの経鷲会会員の参加と、活発な討論が期待されます。

上智大学経鷲会第6回定時総会 於

日時 平成6年11月12日(土)午後2時
母校講堂

第1部 総会

第2部 シンポジューム

テーマ 『アジアの中の日本の役割』

コーディネーター

浜田 寿一氏 上智大学教授 経済学科長

パネラー

西川 龍彦氏 (昭和33年 経・経卒)

台湾29回、中国33回、フィリピン、香港、インドネシア、タイ、シンガポール、インド等へ数多く渡航し繊維関係の分野で活躍中。

メルクロス株式会社勤務

堀井 侃氏 (昭和36年 経・経卒)

1964年から83年までの間、3度に渡り、通算9年間バンコックに滞在。農産物とその流通に精通している。

全農直販株式会社勤務

野田 喜文氏 (昭和47年 文・社卒)

マレーシアに1984から8年間在住、現地の人々の生活の中に飛び込み、その文化を吸収する。東南アジア各国の多くの人々との交流をつづけている。

秀果食品株式会社勤務

佐藤 百合氏 (昭和56年 外・英卒)

大学卒業後アジア経済研究所に入所。インドネシア経済分析を担当。1985年から87年までジャカルタに赴任。インドネシア大学大学院に初めて外国人として在籍。現地資本の企業・企業グループ・企業家に関する調査研究を行う。インドネシアに関する著書・論文多数。

アジア経済研究所地域研究部所属

ホームカミングパーティー開催される

去る5月29日「オールソフィアンの集い」の当日、恒例の経鶯会主催のホームカミング・パーティーが催された。伍堂会長はじめ多くのエコノミアンとその家族の参加により、ゲームと歓談でしばしなごやかなときを過ごしました。

オールソフィアン・ホーム カミング・パーティー雑感

事業企画委員 上原 隆一 (51年 経営卒)

IV号館の175教室ってご存じですか？古い卒業生にはあまり馴染みのない教室ですよね。毎年行ってきた『オールソフィアン・ホームカミング・パーティー』も年を追う毎に来場者が減り、大きな危惧を抱いていた矢先の会場変更でした。経鶯会の役員会でも疑問の声が多く上がったのですが、台所事情の問題では如何ともしがたくPRと企画の充実で来場者にご満足戴けるよう知恵を絞ろうとのことで事業企画委員会に準備に入るよう要請がありました。

晴れたらいいなどの願いもありなん、一天俄にかき曇りバケツの底を引っ繰り返したような雨となってしまいました。でも、

やっぱりソフィアの神様はしっかりとお聞き入れてくださり午後には五月の空の吹流しとまではいかないまでも上々のお天気に恵まれました。

さてくだんの教室とはいかなる処か。結論を言えば素晴らしい教室でありました。角部屋で窓が大きくほどよい広さ、オーディオ設備はカセットにLD、CD、VTR、と何でもござれの結構尽くめ（これじゃまるで不動産屋の広告じゃないか）。ホワイトボードは電動でスクリーンもスイッチひとつでスルスル降りてくるといった塩梅、おまけにオーディオのデスクが本年の新企画『バーカウンター』にぴったりときは、



役員一同今日の成功を確信した瞬間でありました。準備も着々と進み、校内の各ポイントには教室への案内をゲリラ的に貼り、机や椅子の配置も完了し来場者を今や遅しと待つばかりとなりました。

午後1時近く、三々五々OBもご来場になり、会は和やかに進行してまいりました。来賓の先生方も前学部長の佐藤教授、経鶯会のために惜しみないご協力を頂戴している浜田経済学科長等がお揃いになられバーカウンターは大忙し。学部OBで現在メルシャン(株)取締役ワイン事業部長の要職にある大谷先輩が差し入れてくださったワインもほどよく、またバーテンダーこだわりのドライマティニ、スペシャルの特製マイタイ等お酒と甘いフルーツの香りで会場は和気あいあいのとってもよい雰囲気になって

きました。恒例のビンゴ大会では毎度のおねだりで役員一同恐縮しつつも、ご好意に甘えっぱなしで陶芸家の椿先輩にファースト・ビンゴの商品をご寄贈戴きました。また、三木先輩のご友人で国際部卒業のスイス人ご夫妻も自国のご自慢のワインを持参でご参加くださり盛り上がりました。

馴染みのない教室での開催で心配でしたが、ご協力戴いた先生方、諸先輩には心よりお礼申し上げます。またお手伝い戴いた役員の皆様にもお疲れ様でした。もしまたの機会がありましたら今回をバネに更に企画を充実させ皆様をお迎えしたいと存じます。肩の凝らない楽しい催してございます。沢山のOBの皆様のご来会を心よりお待ちしております。



現役3年生を対象とした 就職懇談会 開催決まる

経鶯会主催でOBから現役3年生に、就職に対する見通しとその対策にアドバイスしようと、来る11月末に開催の予定で準備が進められています。方向の決定、情報収集の仕方、就職のための心構えと準備等をOBの立場から現役学生にアドバイスし、さらにその悩みに応えようとする試みです。

ルワンダ難民の救済に一役

第4回オール・ソフィアンズ・ゴルフ大会では、各企業からの協賛品をチャリティして、16万円強の売り上げをあげました。恒例により国連難民高等弁務官事務所活躍されている、緒方貞子先生を通じ、ルワンダ難民救済のために寄付されることになりました。

第4回オールソフィアンズゴルフ大会を振り返って

実行委員長 秋葉 哲 (42年 経・経卒)

7月初めから大変な暑さの続く真夏になりましたが、今年もオールソフィアンズゴルフ大会を例年通り高麗川カントリークラブで開催致しました。

毎年参加申込みをするけれどもなかなか参加人数枠に入れれない、との評判も出ており、今年は個人参加、初参加を優遇したいとの意気込みで準備を始めました。順調に申込みが続きましたが、直前一ヶ月前辺りから申込み辞退が相次ぎました。ゴルフに出掛けたが、あまりの暑さに降参だという方が結構いらっしやいました。また厳しい経済情勢の下、どうしても仕事のやりくり

が付かなくなった方も数名出て参りました。その中で120名のソフィアンが朝早くから参加して下さいました。

暑さにもかかわらず、明るい談笑に包まれる、いつもながらのソフィアンズゴルフ大会独特のなごやかな雰囲気の中で順々にスタートしていきました。

じりじりと照り付ける残暑の中、全員元気にホールアウトし、ゴルフ部現役学生の手早いスコアテスト協力で、スコアカードを提出し、風呂で汗を拭いたり、後は思い思いに冷たい飲物で乾いた喉を潤し、4時からのパーティを待つ一時となりました。

4時からは経鶯会伍堂会長の挨拶と乾杯の音頭で賑やかにパーティが始まりました。司会は今年卒業したゴルフ部OGの曾我子嬢と経鶯会上原隆一さんが受持ち、本大会のもう一つの目的である、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) の緒方貞子先生の活動を支援するチャリティバザーに向け、会場を盛上げていきました。当日の直前に帰国された緒方先生からは、特にルワンダの窮状が伝えられ、当大会もせめて少しでも善意の寄付を集め、UNHCRのルワンダ



難民救済活動を支援することに致しました。現役学生には募金箱を持って会場をまわってもらいました。

チャリティバザーではさすがにソフィアン！皆様積極的にチャリティに参加して下さいました。ワンタッチ開閉の折畳み傘60本、Tシャツ30枚といったご提供の品々があつという間になりました。ショートホールでワンオン出来なかった方のペナルティ（ワンオンしても気前良くチャリティして下さい方、有り難うございます）を含め、16万7千円の寄金を集めることが出来ました。ソフィア会を通じUNHCRへ寄付致しました。皆様の暖かいお気持ちに感謝致します。

女性の部優勝は鈴木直美さん（昭和57卒）が連覇されました。男性の部優勝は浅田将之さん（昭和51卒）、ベストグロス賞は益野力一さん（昭和43卒）でした。過去4回を通してゴルフ部OB、OGの方々の上位入賞が続いており、来年度からは今までのニューベリア方式に代わり、もっと意外性やそ

の日の運等誰でも上位入賞のチャンスのあるような大会にすることも検討しなければならないようです。

5時半近くにはテーブルの料理もあらかたなくなり、心地良い疲れの中、川野副会長の“来年再会を！”との閉会挨拶で、名残りを惜しみながらパーティはお開きになりました。

長い不況の中、今年も多数の賞品のご提供を戴いた企業や個人の皆様には厚く御礼申し上げます。

今回は残念ながら昨年を下回った参加人数でしたが、例年通り楽しい大会を催すことが出来ました。ご参加下さったソフィアン皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

経営会ではオールソフィアンズゴルフ大会が、ソフィアンにとって年一回の楽しいゴルフと歓談の集いに育っていくよう努力致します。来年8月、今回と同様の日時に第5回大会を予定しております。ぜひ来年も奮ってご参加いただきたくお願い申し上げます。

[主な記録]

男性の部	優勝	浅田 将之	83	HD	13.2	ネット	69.8
	準優勝	益野 力一	75	HD	4.8	ネット	70.2
	3位	上土居 欽一	87	HD	15.6	ネット	71.4
女性の部	優勝	鈴木 直美	83	HD	8.4	ネット	74.6
	準優勝	曾我 直子	99	HD	22.8	ネット	76.2
	3位	畦田 亜希子	98	HD	21.6	ネット	76.4



華南経済圏のかなめ
——発展続ける香港——

森 幹男 (36年経経卒・香港経済貿易代表部工業
促進事務所長)

1992年2月、ジェットロ香港センター所長として香港へ赴任する際思ったのは、5年後に迫った中国への主権返還を前にして、香港社会はどう変わりつつあるのか、香港の人々はどのような思いでその日を迎えようとしているのか、香港クライシスは本当に来るのかといったようなことだった。

28年ぶりの香港、そこに見たのはそびえ立つ超高層ビル群、取扱量世界一を誇るコンテナターミナル、そして街を歩きかう活気溢れる人たちの流れ等々、経済活動の好調さに裏づけされた元気いっぱいの香港の姿であった。

現に、天安門事件の影響で一時低迷した経済成長もその後持直し、'91年以降連続して5.5%程度の成長を続け、一人当たりGDPでは、'93年に18,000米ドルを越え、アジアでは日本に次ぐ水準になっており、香港人の生活水準も年々飛躍的に向上してきている。

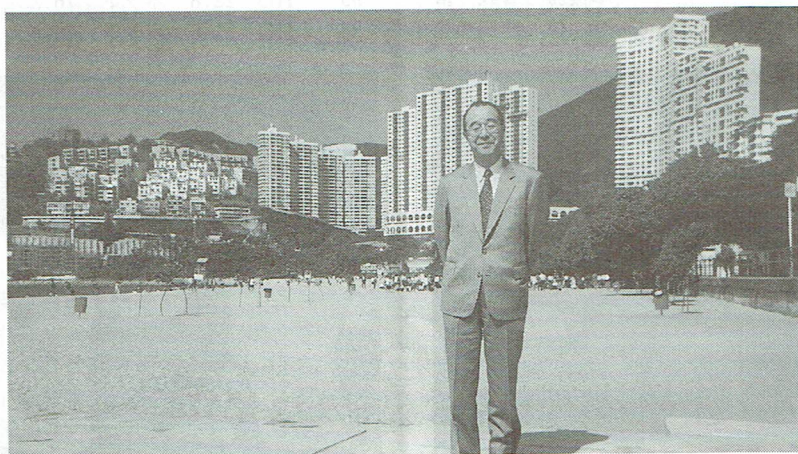
〈進む中国経済との一体化〉

このような香港経済発展の背景には、中国の改革開放政策の発端をきった華南地域とくに広東省との相互補完的な経済の結び付きが大きく貢献している。広東省への外国投資実行額の約80%を香港が占め、約300万人の雇用人口が香港企業に関連して働いているものと推定されている。その結果、香港の総輸出額に占める再輸出額の割合は、'94年1～4月には80.2%に達したのである。

一方中国から香港への投資も活発に行われており、2,000社を越す中国系企業が香港で商活動を行っているといわれている。中国のゲートウェイとして香港の重要性は今後ますます強くなっていくものと思われる。

〈政経分離の中英協議〉

1992年7月に最後の香港総督として着任したパッテン前英国保守党幹事長が打ち出したいわゆる“民主化提案”問題は、17回におよぶ中英協議を経ても決着せず、その間新空港建設の財務問題、軍用地跡地問題をはじめ返還をめぐる重要協議が中断され憂慮されていたが、ここへきて双方とも政治問題を切離し、その他については協議再開ということになり前途に明るさが見えて



きている。これにより、新空港建設の核心部門である鉄道、橋、道路、海底トンネルなどの巨大プロジェクトが本格的に動き出すこととなり、香港経済のさらなる活性化に一段と拍車がかかるのは間違いないところである。

〈返還をエネルギーに〉

以上見てきたとおり、3年後に中国返還を迎える香港は、社会主義市場経済を推進する中国とともに発展する道を切り開き、返還後は「一国二制度」の香港特別行政区として、中英共同宣言、香港基本法で保証された社会制度、経済制度の現状維持、「港人治港」という基本的スタンスのもと発展を続けていくと思う。

いまや香港では、返還は単なる通過点との考え方が一般化してきており、むしろそれをエネルギーとしてさらなる飛躍を目指している。

アジアの中の日本

——瀟洒（商社）マン、番外編——

趙 軍明(三菱商事株式会社海外業務第二部中国チーム)

〈ブルックスブラザーズのスーツにリモアのカバン〉

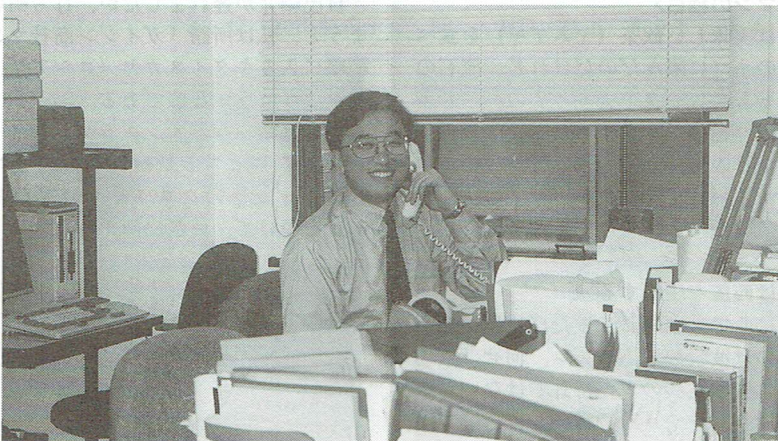
夏の日差しが強くなったのでアルマーニのサングラスでも、少し気障に決めすぎかなあと思いながら出張のため、空港に向かう……。

私は駆け出し商社マン、丸の内の某大手商社に勤めて二年余、この間、マレーシア、フィリピン、タイ、韓国、中国等東南アジアの国々に行ったが、その中でも中国、此处では大中国圏は別の機会におくとして、所謂「大陸中国」に行くたびに認識させられるのは、ブランド品の何と氾濫していることか！

最近、日本でも俄に脚光を浴びはじめた携帯電話、中国ではそれをダコダ（大哥）と称している、は勿論のこと、生意気にもベンツなんぞを乗り付けてくるお兄さんの多いこと、着る物とはいうとイタリア物と相場が決まっているようで、因みにアパレル以外のブランドとしてはカメラはニコン、ビデオはソニー、そしてアフター5はカラオケに行き米米クラブの歌を歌うといった塩梅で、圧倒的に日本商品が多い。

上海にはお立ち台のあるディスコもあるという。まるでバブル時代の日本。

埋れてしまう、私の方がプレステイジの高い物を身につけているのに。



尤も中国は目下、バブルの真っ最中、いたしかたがないが。

〈元氣一杯の中国人〉

それにしても中国人は元氣、それに比べて最近の日本人は少し疲れ気味といった感じ、中国人だけでなく、東南アジアの人たちも元氣。

物思いに耽っていた間にBoeing 767がPeking空港に到着したようだ。今年は何度目になるのだろうか。ホテルは確かシャングリラ系のChina Worldの筈。此処のベーカリーとコンフェクショナリーには美味なるパンとケーキがある。値段もとびっきりであるが（といっても日本の値段と略同じだが）、味もOK！

何といってもロビーに隣接したカフェには小編成のバンドが音楽を奏でてくれるから、もしコッレリの“La Follia”かパッヘルベルの“Cannon”でも演奏してくれたら至福、カプチーノを飲みながらケーキでも食べていると東京より安らぎを覚えてしまう。

明日はタフなネゴになる筈、今日はじっくり休息し英気を養わなくては。幸いホテルにはCNN、B/S NHK、Wow Wowも受信できるので情報にはこと欠かないが。

〈瀟洒マンの独白〉

昨日は美味しい飲茶（ヤムチャ）を食べた今日のネゴに臨んだのだけれど、流石のヤムチャもグレーターチャイナのハードネゴシエーターのギョウザパワーには敵わず、結局、今日の交渉は物別れに終わった。

ホテルに帰ってワールドカップの決勝でも見て気分転換を図らなくては……。

〈東風は西風を圧倒する〉

それにしても中国に来るたびに思い知らされるのは彼我の意識のズレ、何せ「市場経済」は資本主義の専売特許ではないとのご神託通り、今や「計画経済」は古のもの、今日では、「私情経済」或いは「至上経済」

に移行しつつある様相を呈し、私は困惑するばかり。

資本主義にあるものが総て揃っているだけでなく、無い物まで表舞台に登場する結末。思えば毛沢東はかつて「東風は西風を圧倒する」とのたもうたが、ペキンの秀水街を見る限り正に東風（中国）は西風（ロシア）を圧倒、何せロシアの見目麗しい乙女がキタイ（中国）に出稼ぎにやって来る時代、逆に中国人は遠く海を越えてメリケン共和国、ジパングに出稼ぎに行くご時世。

かのクリントンも中国の経済パワーに負けてMFNを延長したほど、昔、日本人はエコノミックアニマルと呼ばれていたが、今や中国人はエコノミックシンドロームにかけ、名実ともにエコノミックアニマルと言えるのでは……。

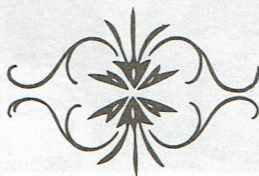
12億総商人の中国、教育問題、農民問題、民主化、少数民族、ポスト鄧の後継者問題、所得格差、三角債の問題等等、問題が山積している、中国よ、貴方はどこへ向かうのか？

その答えは開発独裁の父、リークアンユーのみぞ知る！！！

おっと脇道にそれてしまったが、そういう私も商社マンの端くれ、何とか契約にこぎつけなくては、北京⇒上海間の新幹線のプロジェクト等とはいわないが、せめて数百万ドルの契約が取れるよう頑張らねば。

自己紹介が遅れましたが、打ち明けてしまうと、私は所謂「ガイジン商社マン」の範疇に入るキタイスカヤ（ロシアでは中国人をこういう）なのである。

今日はオールドイングランドのスーツに着替えて、腕にブランパンのリピーター（実はスウォッチのクロノをつけているのだが）をつけて、いざ出陣！！！！



就職戦線に想う

近藤久二子 (57年 経・経卒)

今年もまた、紺色やグレーの背広やスーツに身をかためた男子学生は女子学生の姿が、大手町にも目につく季節がやってきました。就職戦線が厳しい上に、この暑い最中、本当にご苦労様です。特に、女子学生にとっては、「女性も企業の戦力！」ともてはやされてきた数年前から一転して「冬の時代」に入ってしまったようです。

そんな中、皆さん必死に先輩を頼って会社訪問をしているわけですが、米国系証券会社に勤める私のところにも今年も数名の女子学生(上智のみならず)が相談にいらっしやいました。後輩達は、やりたいことが漠然としているものの、将来にむけて何かをつかみたい…自分の可能性を試してみたい…といったようにチャレンジ精神が旺盛で、同じ女性として頼もしいかぎりでした。ただ、今この時に全エネルギーを集中しているかのように思えるので、毎回「肩の力を抜いて、ちょっとだけリラックスしましょう！」ということにしています。というのは、このチャレンジ精神はこれから何回か職業選択の場面だけでなく色々な局面で必要となるもので、決して一回限りのものではないからです。

私自身の人生を振り返っても、チャレンジを要する場面が何回かありました。プライベートでもありましたし、職業選択の場面でも4回はありました。大学卒業後初めての就職(東京銀行)、5年のブランクの後の再就職(ソロモン・ブラザーズ)、さらに転職(博報堂)、そしてソロモン・ブラザーズへの復帰。後になって気がついたのですが、各場面で費やされるエネルギーは相当なものようです。そして、そのエネルギーに耐えうるだけの体力、精神力、思考力も必要だということがわかってきま



した。

聡明な後輩達には、これからのチャレンジにむけて、社会人になってからも益々体力、精神力、思考力、この3つの力を蓄えていってほしいと思います。

もう一つ、経験から申し上げたいのは、チャレンジする各場面では必ず誰かの的確なアドバイスによって支えられていたということです。決して一人の力ではなく、先輩、友人、親、兄弟等の協力があつたわけです。最終的な結論は自分で出さなければなりません、そこへたどり着くまでの間に色々な人の言葉に耳を傾けるべきだと思います。今までに数々の助言を与えて下さった諸先輩方や友人との出会いは、かけがえない宝だと思っております。そういった人々と出会い、人の輪を拡げていくことは必ずしも容易なことではありません。自分から進んでそのチャンスをつかむ努力も必要になります。経鷲会やソフィア会の一員としてお仲間に入れていただき、会員の皆様と出会えたことはとても幸運だったと感謝しております。

これから大学を卒業し社会へ巣立つ後輩の皆様にも、同窓生という縁があるわけですから、遠慮せずどんだん人の輪を拡げる場として経鷲会やソフィア会へ参加して頂きたいと思います。そして、これから卒業される現役学生の方々すでに社会人となっている卒業生と同窓会との橋渡しをしていくことが、私の役目であるとあらためて実感しております。

以上、就職戦線の最中、後輩の皆様へ、まだ若輩ものの私からささやかなメッセージをお送りしました。

OBゼミナール開催

経済界の各分野で活躍するエコノミアンの現場を通してつちかっ
た生の経済学を、現役学生に伝えようとのこころみが'93年より始ま
った。第1回は経驚会副会長川野氏が担当しました。講義内容につ
きましては次号エコノミアンに掲載いたします。

「特別講義（産業発展論二）」を終えて



川野克美 (33年 経・経卒 あさひ銀総研・研究理事)

テーマ選び

1993年度後期に90分授業を毎週1回延べ
13回にわたって講義をいたしました。

大学からは「銀行論」または「銀行経営
論」の講座名をいただきましたので、実務
家の立場から銀行の信用創造機能を多角的
に講義してみようと思立ちました。そこ
で事前に学生数人と話し合う機会をもつて
みますと、CDカードでお金を払い戻す程度
の銀行知識しか持ち合わせていない学生諸
君の関心が、新聞紙上をにぎわした「不良
資産問題」に集中したのには驚きました。

「よく分からないが、あれは一体、どうして
起こったのですか」というキツイ質問に会
い、この成り行き上、講義のテーマがそ
ちらに傾きました。

それにしても、日本の銀行が1990年代に
入って巨額の「オーバーハング」とその後
の「ハングオーバー」に遭遇したのにはそ
れなりに多くの経緯があります。早い話、
新聞や雑誌に取り上げられた「結果」だけ
をみると、あまりに多くのプロセスが省略
されすぎているといわなければなりません。
すなわち、今日の状況はその殆どが1980年
代の「金融自由化」と「競争」の所産とし
て説明できます。欧米でも事情は全く同じ
です。

かくて、私の講義は「1980年代の銀行行
動」というテーマになりました。

居眠りを克服して

10月初旬、夏休みを終えた学生諸君が私
の講義テーマにつられて紀尾井ビル8番教
室をほぼ埋め尽くしました。主催者(?)
の斎藤教授(経済学部経営学科長)も後方
の席にわざわざ付き合ってくれました。「授
業がすすむにつれて、学生数は減るかもし
れない」という教授のご心配にもかかわらず、
2回目以降の登録学生数は70数人、う
ち50名程度の学生が最後まで出席しました。

問題は、随所に生々しい銀行の投融資活
動の「実話」を挟みながら、「その時、君だ
ったらどうする?」と学生の名前を呼んで
切り込んだ頃からです。ほんとうならば午
睡にぴったりの時間帯なのに、学生諸君の
「骨休み」を妨げたこととなります。「実
話」を仮名で語るときに、学生諸君が耳を
そばだてていることに気がつきました。彼
ら(彼女ら)は「実際の話」に殊のほか興
味を持っているのです。

ピア・アーベント

授業が終わると、必ず数人の学生が質問
をもって私のところへ寄ってきます。「金利

が下がると株価はどうして上がるのですか」「LBO融資のアレンジメントは？」などなど、学生は講義の途中で説明を省略した部分を見逃しません。そんなやりとりを繰り返しているうちに、年が明けて、1994年の新年会をやることになりました。場所は半蔵門のダイヤモンド・ホテル（私の銀行時代の同僚が副社長）、夕刻6時から兼光経済学部長、浜田、斎藤両教授にもご臨席願ひ、また、経鶯会から伍堂、三好、堀井、遠藤、池田、三木、尾原各氏にも列席をい

たいただきました。教授、OBそれぞれの周りに学生数人ずつが輪をつくり、フリー・トークキングに花を咲かせた光景が印象的でした。

二単位の授業ですから成績評価が必要ですが、全員レポートを提出して合格点をとっております。圧巻はレポートに添付された学生たちの感想文でした。「臨場感あふれた講義をこれからも続けて欲しい」という彼らの願望を書き忘れるわけにはいきません。

ソフィアの著書のご案内

第1回のOBゼミを担当された川野克美氏が、そのゼミの講義録を基として下記の著書を出版する運びとなりました。実務家ならではの探求と鋭い分析力に困ってまとめられた著書は大きな期待をもたれています。経鶯会会員の皆様のご一読をお勧め致します。

出版社 有斐閣

発行時期 平成7年1月

書名 『金融自由化と銀行行動—1980年からの栄光と挫折』（仮題）



懇親会は新設の“ソフィアンズクラブ”で行われます。

第6回経鶯会総会は11月12日(土)14時より行われます。また懇親会はこの10月にオープンした、ソフィアン待望の“ソフィアンズクラブ”で開催することになりました。オール・ソフィアの憩いの場、交流の場として新設された“ソフィアンズクラブ”の経鶯会へのお広めでもあります。是非ご出席ください。

準備の都合がございますので、添付の出席連絡ハガキにご記入の上なるべく早めにご投函ください。

懇親会の会費は5,000円です。

総会出席のご返事はお早めに！

今期の収支見通しについて

会計委員長 松野秀朗 (41 経・商卒)

前号では経鷺会の主要行事である「春のホーム・カミング・パーティ、夏のゴルフ大会、秋の総会・シンポジウム」等の活動基盤の充実に反し、「会報の発行」を財政面で支えている会報収入が低迷し、財政危機に陥っている窮状を訴え、皆様のご協力をお願いいたしましたところ、その後、多数の方から会報費、賛助金をお支払いいただき、有難うございました。

今期の予算に組み込まれた行事は、会報の発行を除き、収支見通しが立つ状況となりましたことは皆様の日頃のご協力の賜物と感謝しております。

懸案の会報および賛助金収入につきましても期初予算合計300万円に対して6月末現在で6割強の振り込みを頂いており、目標達成も夢ではない状況となっております。

納入状況につきましては総数8,000人の2割に近づいており、当初の目標3割を達成すべく、引き続き各層をお願いしたいと存じます。

今期の納入状況を見ますと、個人の振り込みの他に同期会やゼミOB会等での40年代以前の世話役のご尽力によると思われるものが多々見られます。

また、賛助金につきましても貴重なご意見とともに多数の方にご協力をいただいております。特に個人で多額の振り込みがありましたことを感謝申し上げるとともにご報告申し上げます。

ご意見につきましては今後、各委員会でご検討したいと考えております。

来る11月の総会には多数の方にご参加いただき、この盛り上がりを持続できますことを希望しております。

編集後記

* 今号も東南アジアに焦点を合わせて、諸兄弟のご意見を頂戴致しました。アジアを知るソフィアンからは、昨今のアジアへの関心はその経済面にのみに偏っている。アジア固有の文化とそこに生活する人々を理解することに、より大きなエネルギーを投入することが必要だ。とのご意見が多くありました。例えば今年の7月ごろまでは大きな社会問題であったお米。足りるとか足りないとか、安い高い、旨いまずいと、どれをとっても日本の立場だけが議論の対象になっていた。米を出す国の国内需給、それがその国の人々の生活にどう影響しているか事実を踏まえた上での議論はなぜ成されなかったのか。豊作だとの見通しが出ると輸入米は途端に継ぎ扱い。タイ米の如きは、塵あくたのように扱う。このことを知ったタイの人々は日本人に対しどんな感情を抱くだろうか。心貧しき金持ちを隣人として遇しようとは決して思うまい。

第6回定時総会の記念行事のシンポジウムは、アジアの人々の生活の中に、どっぶりとつかりながら、真の隣人として交流しているソフィアンの生々しい声が聞かれるのではないかと、パネラー諸氏の問題提起に大いに期待したい。

* 経鷺会の中に分科会として趣味のグループを作ったらとの声あり。ゴルフ大会の盛況が発端。より多くの会員が集い、交流の場が広がってほしいとする役員諸氏の願い。諸兄弟のご意見・ご提案をお待ちします。

* 次号のエコノミアンは体裁も大きく変更しページ数も100ページほどにしようとの構想が練られています。OBゼミの内容を詳細に掲載したり、会員の研究発表の場にしたいと考えております。会員各位の寄稿を期待しております。